講義名	専門基礎演習				
科目区分	特別研究				
担当教員	西井　和夫				
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 １時限		授業形態		
	2019年度 経済学部 経済情報学科 情報システムコース／2019年度 経済学部 経済情報学科 経済情報コース／2019年度 経済学部 経済情報学科／ 2019年度 経済学部 経済学科 地域まちづくりコース／2019年度 経済学部 経済学科 現代経済コース／2019年度 経済学部 経済学科				
履修開始年次	２年生	単位数	2	備考	

主題と概要

★注意★：
緊急事態宣言に伴い、当分の間、本授業はオンライン授業で進めることになりました。それに伴い、授業の進め方、提出課題、評価の基準等は、当初の予定から変更されることが予想されます。

まず、「提出課題」欄にある前の部（ゼミ紹介・ゼミ訪問・申込書作成）については、当初の予定から変更され、オンラインで行うことになりました。詳細は決定次第、ここのシラバスに反映したり、「講義連絡」でお知らせしたりします。

RYUKA Portalの「講義連絡」やメール、及びここのシラバスをこまめにチェックするようにして下さい。

1年次の「気づきの教育」を経て見出した、将来の「なりたい自分」の実現に向けて、自ら選択した学部・学科・コースでの2年次以降の学びに円滑に移行できるよう、専門科目を学ぶ際に求められる基礎的な能力・技能のさらなる向上を図ることを目的とする。「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、汎用的な能力・技能を育成するとともに、各学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図る。これらを通じて、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき5項目の資質・能力を身につける上での確かな基盤を築く。

到達目標

・「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、文書作成能力、プレゼンテーション能力等を含む基礎的なコミュニケーションの能力・技能を身につけている。
・学部・学科の専門分野、研究演習の研究対象分野に応じて必要とされるレベルの、Word、PowerPoint、Excel 等の操作能力・技能を身につけている。
・将来の「なりたい自分」の実現に向けて、それに即した適切な専門ゼミ(「研究演習Ⅰ」)を選択できる。

提出課題

経済学部の専門基礎演習は、前の部10回と後の部5回から構成される。
前の部は、第1回のガイダンス・ゼミ紹介等を経て、第2～9回において経済学部開講の専門ゼミ(「研究演習Ⅰ」)を訪ね、個別ゼミ訪問をしてから、第10回において研究演習Ⅰ第1次募集申込書の作成を行う。第1～9回は、毎回のワークシートの完成が課題として、そして第10回は、申込書の事前下書きと申込書の完成が課題として課される。
後の部は、第11～15回においてクラス別に能力・技能の向上と育成のための演習を行う。提出課題は担当教員により異なる。詳しいことは演習時に説明する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

第1～９回の提出されたワークシートは、担当教員による確認等を経てから受講生に返却される。研究演習Ⅰ第1次募集申込書に対しては、10回において担当教員がチェック・確認・アドバイス・添削等を行う。11回～15回の提出課題に対するフィードバックは担当教員により異なる。詳しいことは演習時に説明する。

評価の基準

前の部50%、後の部50%の割合で評価を行う。
前の部は、第1～9回のワークシート、第10回申込書の下書きと完成の度合い、授業への参加態度によって評価する。後の部の評価方法は担当教員により異なり、詳しいことは演習に説明する。

履修にあたっての注意・助言他

この科目は、継続的な演習を中心とした科目である。欠席すると以降の演習に支障をきたす恐れがある。このため、目標達成のためには、初回から最後まで全て出席すること。

教科書

. 使用しない.

プリント資料及び参考文献

プリント資料は、必要に応じて授業中に配布する。参考文献は、必要に応じて随時紹介する。

授業計画

1. 合同ガイダンス・ゼミ訪問説明・ゼミ紹介

2～9. 個別ゼミ訪問

10. 研究演習Ⅰ第1次募集申込書作成

11～15. 基礎的な能力・技能の向上と汎用的な能力・技能の育成のための演習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート
○	エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

配布資料などで予定箇所を予習し、講義終了後には当該箇所を復習すること。個別ゼミ訪問に対しては、予習として事前に訪問予定ゼミ（研究演習Ⅰ）のシラバスを熟読し、予備知識を備えておくこと。１回の講義に関する下調べと事後確認に4時間程度をかけることを目安とする。なお、研究演習Ⅰ第1次募集申込書の下書きの作成や、その他の宿題やレポート作成もその中に含む。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考